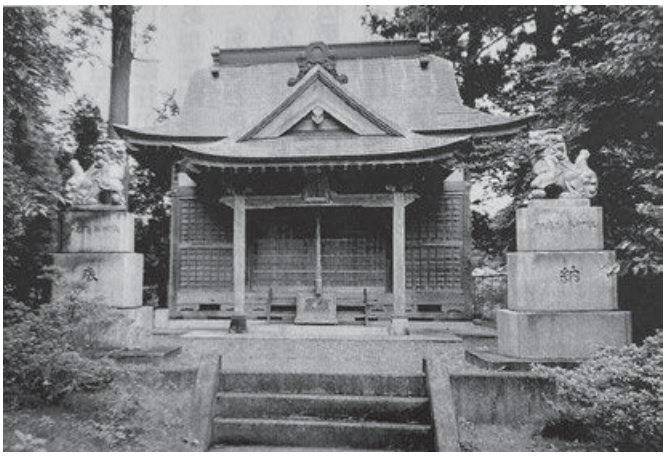
かさまのれきし

第70回



加志能為神社

親鸞聖人袈裟掛けの松
（昭和17年撮影）

親鸞ゆかりの地　加志能為神社

県道石岡・城里線を岩間方面から鯉淵（旧内原町）に向かう途中、枝折川に架かる柏井橋を過ぎ信号を右折し、二〇〇メートルほど行くと、みの観音に出ます。そこを右に曲がり一〇〇メートルほど行くと加志能為神社の前に出ます。

神明鳥居は明治四十二年（一九〇九）に、幟立石は大正二年（一九一三）に建立されました。鳥居をくぐって進むと、平成四年（一九九二）に奉納された石造の狛犬があります。また、境内に、昭和四十六年（一九七一）に建てられた神社の由緒碑があります。

加志能為神社の祭神は、弥都波能売命・鳴雷神で、例祭は十一月二十二日です。

境内神社は、瀬織津姫命を祀る清滝神社、大山咋命の日枝神社、奥津比古命・奥津姫命の三柱神社、高於加美命を祀る大山神社、須佐之男命を祀る八坂神社です。奥津比古命・奥津姫命は、ともに竈の神（荒神様）です。

神社の創立は、承久三年（一二二一）三月とされています。親鸞が常陸国に来て七年目にあたります。

親鸞は稲田に住んで各地を布教して歩き、ときどきこの辺りにも来ていたといわれています。近くの枝折川は、加志能為神社付近から一キロほど南下して涸沼川に合流します。当時、幅が一間（約一・八メートル）もあれば舟が往復できました。涸沼川は交通路であり、親鸞は、笠間から舟で下ってくることもあったことでしょう。言い伝えでは、大昔に鹿島大神が当地方を平定した時のゆかりの地で、布教の折、親鸞がこの地に来られたとき、白髪の老翁があらわれ、「われは鹿島大神なり」といわれました。親鸞は驚いて、すぐに村人に伝え、村人に勧めて鹿島明神の分霊を迎え、当所の鎮守としました。社名の由来は神水「鹿の井」によるとされています。この井については、親鸞もたびたび汲んだ井戸と伝えられています。

当社のすぐ前に、親鸞ゆかりの松があります。この松に親鸞が袈裟（蓑懸けともいいます）を掛けて休憩したといわれています。袈裟掛けの松には、親鸞が「松の志ん幾千代経ぬれ柏井の里」と詠んだとされる歌が伝えられています。松は昭和四十年代に枯れ、その跡に、平成十六年（二〇〇四）に加志能為神社氏子一同が記念碑を建立しました。

なお、神社前の畑一帯は縄文時代の柏井遺跡で、土器・石器等が多数出土しています。なかでも土偶はこの地方では珍しく、貴重なものです。

（市史研究員　福島 和彦）

問　生涯学習課（内線382）